

宇都宮市立富士見小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【家庭での学習】について ○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」で「はい」と回答した児童の割合は、73.1%で県の平均を38.8ポイント上回った。同様に「家で、学校の授業の予習をしている」は60.5%で、県の平均を38.6ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている」も60.5%で県の平均を25.5ポイント上回るなど、この分野の回答全般から見て、宿題や自主学習等での家庭学習の習慣がしっかりと身に付いている児童が多いと言える。児童の意欲を高めながら、家庭学習が充実したものになるよう支援を継続していく。 【読書】について ●「1か月に、何冊くらい本を読みますか」という質問では、校内では「1～2冊」と答えた児童の割合が28.6%と最も多い。県の回答と比べると5冊以上本を読んでいる児童の割合が4.1ポイント低い。朝の読書や図書室の活用などを通して、児童が本に興味をもち、読書の習慣化に繋がるよう支援を続けていく。 【学ぶ意欲】について ○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」で「はい」と答えた児童の割合は86.6%で、県の平均を37.3ポイント上回っている。また、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」で「はい」と答えた児童の割合は48.7%で、県の平均を22.2ポイント上回るなど、多くの児童が学びに対して前向きな態度で取り組んでいることが分かる。今後も児童にとって魅力のある授業作りに努め、主体的な学びに向かう態度を育てていくことができるようにしていきたい。 【学校での様子】について ○「毎日の生活が充実していると感じている」で「はい」と答えた児童の割合は85.7%で、県の平均を32.6ポイント上回っている。また、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」で「はい」と答えた児童の割合は59.7%で、県の平均を37.9ポイント上回るなど、良好な人間関係の中で自己有用感をもちながら学校生活を送っている児童が多いことが分かる。互いのよさを認め、励まし合い支え合うことのできる学級集団の育成を通して、一人一人が自分のめあてに向かって伸びていこうと努力することができるよう、今後も指導・支援を続けていく。 【家での生活】について ○テレビやテレビゲーム、スマートフォンの利用についても、県の平均と比較するとルールのある環境で、節度をもって利用している児童が多いことが推測される。 ●平日テレビゲームを2時間以上（最大4時間）すると回答した児童の割合の合計は21%で、県の割合を21.8ポイント下回っている。スマートフォンやテレビゲームの利用については、家庭内でルールや約束を話し合って決め、適切な利用の仕方を実践することが大切だと言われる。家庭の協力を得ながら、学校でも啓発を続けていきたい。 【自分自身のこと】について ○「自分には、よいところがあると思う」で「はい」と回答した児童の割合は73.1%で、県の平均を30.8ポイント上回っている。また、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」で「はい」と回答した児童の割合は75.9%で、県の平均を40.5ポイント上回るなど、今までの学校生活を通して適度な自尊心を持ちながら、前向きに日々の生活に取り組んでいる児童が多いことが分かる。思春期に差し掛かり、自身の成長や人間関係に悩みやすい時期である。学級の中で児童の思いに寄り添いながら、誰もが安心して学校生活を送ることができるよう、今後も努めていく。
--

宇都宮市立富士見小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	・朝の学習時における漢字や計算練習の実施、ステップアップシートの活用	・漢字の読み書きについては、4年生は県の正答率と同程度、5年生は上回っており、数と計算の領域については、4、5年生とも県の正答率を上回っている。 ・4、5年生とも、各教科の基礎内容が県の正答率を上回っている。
・望ましい学習習慣の確立	・「家庭学習のすすめ」による家庭学習内容の提示と家庭学習強化週間の実施及び家庭との連携協力の強化 ・学年に応じた宿題の出し方の工夫	・家庭学習に関する質問項目については、4、5年生とも県の肯定的割合を上回っている。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・各教科の見方・考え方を働かせる教師のコーディネート ・自分の思いや考えを表出させるための支援 ・多くの児童を参加させ、考えや表現を広げ深める対話的活動の設定 ・学びを実感することのできる振り返りの工夫	・「勉強していて面白い楽しいと思うことがある」「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」「学習したことを振り返る活動を行っている」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目において、4、5年生とも県の肯定割合を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、基礎的な知識や技能は身に付いていることが分かるが、要点をまとめたり、自分の考えを記述したりする問題になると、無回答も増え、課題が残る。	自分の思いや考えを表出させるための支援	授業時間では、思考する時間を十分に確保し、自分の思いや考えを表出できるようにする。また、自分の言葉で授業のまとめをしたり、自分の考えを振り返って記入したりするなど、大事なポイントを押さえながら短い言葉でまとめるという経験を積み重ねていく。